

## 紀要の創刊に際して

茲に青山學院女子短期大學紀要が創刊の運びに到つたことは當短大の責任者として筆者は感謝と歡喜に堪へない。短大は呱呱の聲を擧げて以來年端も行かず、殊に私立の短大に於ては、不如意の事多く、従つてエネルギを不必要に勞費し勝ちであり、又研究に必要な時間と施設を十分にもち得ないことを常に遺憾に思つてゐる。

然しながら教師たるものは單に曆の上で學生に先輩であるといふ意味の「先生」でなく、學的研究の精進努力成果に於ても亦、彼等より「先成」でなくてはならないと自ら戒しめてゐる。苟しくも短大が大學と銘打つて世に立つてゐる以上は、その教育と研究は併行し、教授はよい教育者であると共によい研究家でなくてはならない。諸教授が研究の結果を發表されることに依つて世の嚴正なる批判を戴き、自らの針路を是正されると共に惰者に對しては痛烈な刺戟獎勵となり、この紀要が教授團一同の上に「相働きて益となる」ことを信じて疑はない。

茲に紀要の創刊を祝ふと共に刊を重ねるに従つてその質量共に益々向上増大  
するやう祈念してやまない。

昭和二十七年七月四日

青山學院女子短期大學長 向 坊 長 英